

2025年5月22日

和歌山県知事職務代理者

和歌山県職員 福本 仁志 様

日本共産党和歌山県委員会

委員長 下角 力

日本共産党和歌山県議会議員

奥村 規子

岸本前知事の県民葬についての申し入れ



(左から、県知事室長、奥村県議、下角県委員長)

岸本周平前知事が急逝されたことに、深い哀悼の意を表します。学校給食費の無償化やこども食堂への支援拡充などの施策は県民から喜ばれています。

すでに行われた岸本前知事の通夜や葬儀とは別に、6月7日には県民文化会館大ホールで「県民葬」を執り行う準備が進められています。これまでも和歌山県では元知事が亡くなった際に、県主催の「県葬」や実行委員会主催の「県民葬」が行われてきましたが、いずれも条例や規則に施行の定めはなく、知事経験者が亡くなった際に「県葬」も「県民葬」もされなかったこともあり、執り行いの基準が不明瞭です。

今回の「県民葬」には約3000万円の費用が見込まれ、大部分を県の予備費から支出するとのことです。「財政危機警報」の発出など、財政難を訴え続けてきた岸本前知事の「県民葬」に3000万円を出費するのが適切な支出かどうか疑問です。さらに、県内自治体へも負担が呼びかけられています。どちらにしても県民・市町村民の税金であり、税金で「県民葬」を執行することは、あらゆる考えを持つ県民への弔意の強要にもつながります。

予備費は災害発生や感染症拡大など不測の緊急事態に備えるための予算であり、和歌山県では毎年2億円を用意しています。予備費を含む当初予算が2月議会で可決されているからとして、「県民葬」の執行が今後の議会に上程されることはありません。近年、災害や感染症が多発しているもとで、どこにも諮られることなく予備費から3000万円を充てることは、不適切な支出であるといわざるを得ません。

以上について、申し入れます。